

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2014年8月23日）

今日の活動は、「野田まつり」への参加です。いつもより遅く 12 時 45 分に弘前大学前を出発しました。この日の参加者は、学生が 7 名と市民が 8 名、教員 1 名、現地で学生 1 名が加わって計 17 名です。高速道路に入り花輪サービスエリアでの休憩後に自己紹介が行われました。市民の参加者の多くはボランティア経験者で、野田まつりの参加経験者も多くいました。対照的に、学生の参加者は初めての者が多く、事務局以外の学生の大半は初めての野田訪問でした。高速道路を降りてから、道の駅おりつめで 2 度目の休憩をとり、集合写真を撮りました。



道の駅「おりつめ」での集合写真。

その後もバスは順調に進み、16 時少し前に野田村に着きました。先に到着していた北明ねぷた会の皆さんと合流し準備に取り掛かります。今回運行予定の「のんちゃんねぷた」は、震災の起きた年に、市民の皆さんのご協力を得て作成したものです。あれから 3 年が過ぎて大分傷みが激しかったため、一度は今回の運行を諦めかけましたが、再び市民の皆さんのご協力を得て修復できました。ただ、今回も最初は内部の電球がうまく点灯せず、市民の猪股さんのご協力で何とか無事に点灯させることができました。



復活した「のんちゃんねぷた」。何とか無事に点灯しました。

運行開始が 19 時 15 分だったので、準備が終わった後はそれまで各自思い思いに「野田まつり」を楽しみました。ステージはもちろんですが、出店も大盛況で大いに盛り上がっ

ていました。帰りの感想でも「よさこい演舞がすごい迫力だった。感激した。演奏も素晴らしかった。ミニ灯籠も感激した。」「イベントで盛り上がった。楽しむことできた。」という声が聞かれました。



イベント会場の風景。夜遅くまで盛り上がっていました。

この間に、学生事務局の発案により海岸までのオプションツアーも組まれました。今回参加者した学生の多くが初めての参加だったので、急遽組まれたものです。このツアーには7、8人が参加したようです。ここでも市民参加者の猪股さんが詳しい解説をしてくれたので、学生事務局の担当者も勉強になったようです。復路のバスでも「海岸ツアーで市民の猪股さんに教えてもらった。内容の濃いツアーをできた。」という声がありました。



ねぶた運行の様子。野田の子どもたちや他のボランティア団体の皆さんも参加してくれました。

19時に集合し運行の準備に入りました。今回の構成は、先頭に「のんちゃんねぶた」、その次に北明ねぶた会の担ぎねぶたと太鼓・笛が続く形です。同時刻に秋田の竿灯も運行

を行っており、「競演」となりました。コースは、野田村役場の前の道を鳥居近くまで行って引き返してくるもので、これを2往復しました。途中、まつりの運営者側のご配慮で広場の中にも入れていただき、ステージ前を運行させていただきました。「のんちゃんねぶた」には、野田村の子どもたちや、山口恵子先生が引率されてきた立教大学の学生さんも加わってくれました。担ぎねぶたは、男子学生と北明ねぶた会の方が担ぎ、途中から他のボランティア団体の方々や地元の皆さんも加わって下さり、大いに盛り上がっていました。ねぶた運行に関しては、「のんちゃんを直せるか不安だったが、市民の皆さんのお手伝いで実現できた。野田の皆さんにも喜んでもらえてよかった。」「何よりよかったのはのんちゃんねぶたを復元し、運行できたこと。嬉しかった。苦労したがやった甲斐があった。」「初めてねぶた担いだが、とても楽しかった。」という感想が聞かれました。また、「今日は笛を吹いていたが、街中を歩くことができなかつたのが残念だった。」という声も聞かれました。

ねぶた運行終了後、再び各自まつりに参加し、21時頃バスに乗り込んで帰路につきました。結局弘前大学に戻ったのは0時20分頃になりました。今回の活動全体を通じて、「野田の知り合いや子どもたちに会えて嬉しかった。出会いが大切だと思った。」「野田まつりは、楽しい夜を過ごせる一日。とても楽しかった。」「今年の夏の最後の思い出に楽しいひと時を過ごせた。」「大きなイベント参加でき、盛り上げに一役買えて嬉しかった。」という感想がありました。また、早くも「来年も参加したい。」という声が数多く聞かれました。

今回の活動は、嬉しいことがたくさんありました。たくさんの人たちが広場や道路に集まってまつりを楽しみ、子どもたちのはしゃぐ声が聞こえたのも嬉しかったですし、野田中学の仮設住宅にお住いの方にねぶた運行を見ていただけたのも嬉しかったです。また、教員事務局だった山口先生、学生事務局OBの齋藤君、教育学研究科の三上君に野田村で再開できたこともとても嬉しいことでした。ねぶた運行後、北明ねぶた会の方と握手をしながら運行が終わったことを喜び合い、「来年もまたやりましょう!」とお願いされたことも嬉しい出来事でしたし、帰りのバスの中で参加者から「来年も参加したい。」という声が数多く寄せられたのも嬉しい出来事でした。

このような嬉しい出来事が多かった今回の活動ですが、ねぶたの運行は、教員・学生だけでは絶対になし得ないものでした。「のんちゃんねぶた」の修復を「やりましょう」と言ってくださった神さん、運行の準備をしてくださった猪股さん、高橋さん、金子さん、そしてのんちゃんねぶたを野田村まで運び、一緒に運行してくださった北明ねぶた会の皆さん、これらの皆さんはじめ市民の皆さんの積極的な支援がなければなし得なかったと思います。最後に、今回の運行に関わって下さったすべての皆さんに感謝して筆を擱きます。



参加者全員で最後に記念撮影。

(担当 平野 潔)